

「想いはケーナの調べにのせて」 田中健さん 釜石でコンサート 16日、双葉小で

「想いはケーナの調べにのせて」をテーマに、俳優の田中健さん(63)＝写真＝が16日午前11時から、釜石市の双葉小体育館で復興支援コンサートを開く。

ケーナは南米アンデス地方に伝わる縦笛の楽器。田中さんは1983年にケーナと出会い、演奏家としても活動。震災後の2012年4月に釜石を訪れ、仮設住宅の住民らと交流を深めたほか、昨年11月に釜石で上演された朗読劇「兄のランドセル～いのちの政治家山本孝史物語」に出演協力している。



今回の復興支援コンサートは、釜石地区法人会が社会貢献事業の一つとして主催。田中さんのケーナの響きに合わせ、釜石や大槌町のさまざまな合唱グループが賛助出演する。

同コンサートは15日午後3時から大槌町の城山公園体育館、16日には遠野市のあえりあ遠野交流ホールでも午後4時から開かれる。

いずれも入場無料。問い合わせは釜石地区法人会(電話0193・22・7200)へ。

被災地思うケーナの響き

俳優の田中健さん 復興支援コンサート 音楽愛好者らと共演

俳優でケーナ奏者の田中健さんが出演する復興支援コンサートが16日、釜石市の双葉小体育館で開かれた。公益社団法人釜石地区法人会(会田良雄会長)の社会貢献事業として企画され、田中さんの演奏やトーク、地元で活動する音楽家らとの共演を約300人が楽しんだ。

田中さんはケーナで「もののけ姫」を演奏しながら登場し、「コンドルは飛んでいく」「春花の兆し」など6曲を聴かせた。自身が歌う「あなたがいるから」も披露。心に響く音色と歌声が会場を包んだ。曲の合間には、アイドル歌手から俳優の道に進んだエピソードなども明かした。

田中さんは1983年の南米旅行で、アンデス地方に伝わる竹製の縦笛「ケーナ」に出会い、独学で演奏技術を習得した。2012年4月、釜石・大槌を訪れ津波犠牲者の冥福を祈る鎮魂演奏を行い、平田の仮設団地住民と交流。同11月に釜石で開かれた、命の大



ケーナを吹く田中健さん。3回目の釜石訪問に「またさらに皆さんと近づきました」

とのコラボレーション演奏や市内の合唱、キッズタンゴグループの応援出演もあり、心温まる友情の輪が広がった。

甲子のコーラスグループで出演した北條市さん(74)は「田中さんの人間性が伝わってきて素直に感動。一緒に歌わせていただき感謝。被災地を思う気持ちがあるにありがたい」と夢のような時間を振り返った。

田中さんは「皆さんが少しずつ元気になり、まちの動きも前向きになってきているのがうれし。ここに来ると勇気をいただく。被災地の頭張りが日本人の底力を世界に広げている」と話し、つながりの継続を誓った。

同法人会は釜石、大槌、遠野3市町の法人事業所約460社で組織。コンサートは、大槌、遠野でも開いた。